

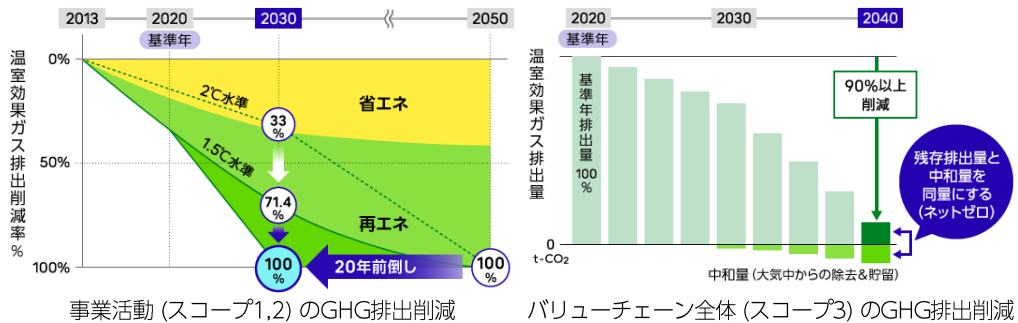
気候変動対策

富士通グループ環境ビジョン「Fujitsu Climate and Energy Vision」に基づきGHG排出量の削減目標を設定し、気候変動対策に取り組んでいます。

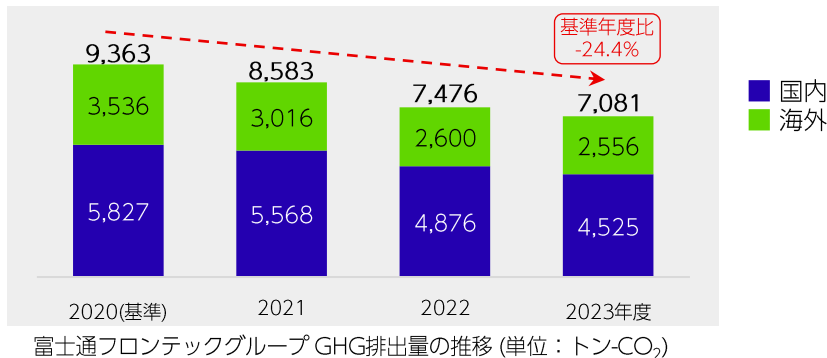
■ [Fujitsu Climate and Energy Vision] の実現に向けて

富士通グループでは、自社事業活動における排出量を2030年度に、またバリューチェーン全体の排出量を2040年度にネットゼロとする新たな目標を策定し、2023年6月にSBTi※1より「ネットゼロ」の認定を取得しました。(続き: Fujitsu Climate and Energy Visionのページへ)

[ネットゼロ実現に向けたロードマップ]



富士通フロンテックグループでは、当Visionの「自社事業活動における排出量を2030年度にネットゼロ」の実現に向けて「環境行動計画」のテーマとして「事業拠点におけるGHG排出量の削減」および「再生可能エネルギー (再エネ) の適用拡大」を掲げ、取り組んでいます。再エネの適用拡大と省エネの推進の両輪で取り組んだ結果、グローバルでの当社グループの2023年度の実績は、基準年度である2020年度比で約マイナス2,281トン-CO₂ (24.4%減) となりました。



※1: パリ協定で示された科学的根拠に基づく温室効果ガス排出削減目標を企業に推奨・支援するイニシアチブ

■ 再生可能エネルギーの適用拡大

当社グループでは、富士通グループとして参加しているRE100※2の達成に向け「2030年度末までに事業拠点で使用する電力の100%を再エネに切り替える」計画を立て、2021年度から本格的な取り組みを開始しています。国内では、2023年度に当社グループ全体の13%相当分の再エネを導入。海外では、グループ会社のFUJITSU DIE-TECH CORPORATION OF THE PHILIPPINES (FDTP: フィリピン) が2024年7月に購入電力の全量を再エネへ切り替え完了し、100%再エネ工場として稼働を開始しています。

※2: 「Renewable Energy 100%」の略で、企業が自らの事業で使用する電力をすべて再エネで賄うことを目指す国際イニシアチブ。

■ 事業所における省エネの推進

高効率設備への更新

本社・東京工場では、2018~2019年度および2023年度において、開発製品の品質保証に使用する大型の恒温恒湿チャンバーを従来比約半分の消費電力の最新型へ切り替え、GHG排出量の大幅な削減効果 (サンプル測定の結果、従来機と比べ約70%削減の数値を計測) が出ています。

設備運用の改善

本社・東京工場では、屋上に設置している空調室外機の夏場の運転負荷を軽減するために日除け用のネットを設置するとともに、冬場の空調負荷を抑制するために断熱性の高いエアーカーップを窓に取り付けています。

また、新潟工場では、出荷製品の品質保証に使用する高温バーイン設備をアルミ製の断熱材で覆い、放出される熱を閉じ込め、設備内の温度を一定に保つことで、付属の温風機の稼働を抑制するとともに夏場の室内温度の上昇を抑制しています。



室外機の日除け (本社・東京工場)



バーインの断熱 (新潟工場)